

## 第26回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

### 1. 開催状況

日時：2020年6月25日（木） 18:30～19:10

場所：Web会議

出席者：

大山 力 座長（横浜国立大学大学院 工学研究院 教授）

秋池 玲子 委員（ポストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター&シニア・パートナー）

秋元 圭吾 委員（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）

阿部 公哉 委員（東北電力ネットワーク株式会社 電力システム部 技術担当部長）

安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）

石坂 匡史 委員（東京ガス株式会社 電力トレーディング部長）

市村 拓斗 委員（森・濱田松本法律事務所 パートナー弁護士）

岡本 浩 委員（東京電力パワーグリッド株式会社 取締役副社長）

加藤 英彰 委員（電源開発株式会社 経営企画部長）

上手 大地 委員（イーレックス株式会社 経営企画部長）

紀ノ岡 幸次 委員（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 エネルギー・環境企画部長）

小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 准教授）

上坂 喜人 委員（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部 部長）

竹廣 尚之 委員（株式会社エネット 経営企画部長）

林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）

松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）

森本 将史 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力基盤整備課 電力供給室長）

堀内 奈緒子 オブザーバー代理（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長補佐）

住田 光世 オブザーバー代理（電力・ガス取引監視等委員会 取引制度企画室 課長補佐）

谷垣 圭太 オブザーバー代理（電力・ガス取引監視等委員会 上席卸取引検査官）

欠席者：

圓尾 雅則 委員（SMB C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）

下村 貴裕 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長）

恒藤 晃 オブザーバー（経済産業省 電力・ガス取引監視等委員会事務局 総務課長）

黒田 嘉彰 オブザーバー（経済産業省 電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引制度企画室長）

議題：

容量市場のメインオークションに向けた状況

資料：

- (資料 1) 議事次第
- (資料 2) 委員名簿
- (資料 3) 容量市場のメインオークションに向けた状況
- (資料 4) (参考) 容量拋出金の具体的な計算方法

## 2. 議事

### (1) 容量市場のメインオークションに向けた状況

○ 事務局より、資料3に沿って、容量市場のメインオークションに向けた状況について説明が行われた。

[主な議論]

(紀ノ岡委員)

容量市場の制度設計については、勉強会から 30 回にわたる議論を重ね、ようやく来月 1 日から入札を迎えることになった。これまで整理されてきた事項に則り、事業者として適切に行動してまいりたいと考えている。初回オークションを経て、新たな課題が顕在化する可能性もある。今後、定期的に検証される予定ではあるが、募集要綱にも謳われているとおり、一定の投資回収の予見性を確保し、電源の新陳代謝が市場原理を通じて適切に行われることを通じて、効率的に中長期的に必要な供給力を確保する、という市場創設の狙いが実現されるように、引き続き本検討会においても、新たな課題が出てきた場合には、対応策をご議論いただきたいと思います。

(小宮山委員)

スライド 18 の容量市場に係るシステム関連の全体イメージについて意見を申し上げる。供給信頼度にかかわる部分で容量停止計画の調整機能については、より複雑な手続きになると思う。ここに示されている項目の中でも、非常に作業のプライオリティとして高いものになると思う。それぞれサブシステムとして捉えるのか、独立したシステムを構築し、お互い有機的に連携させるのか、具体的なシステム開発について、今後、検討を深めることが重要だと思っている。情報セキュリティ等の問題もあり、非常に重要な検討項目であると思っているため、しっかり検討していただきたい。

(石坂委員)

14 スライドについてコメントする。市場支配力の監視と包括的な検証の項目について、制度検討作業部会において市場支配力の行使によって社会コストが不当に高くないように、例えば、価格のつり上げがあった場合に次点の入札電源の価格を約定価格とするなど、これからの検討課題として議論されようとしている。この監視は、電力・ガス取引監視等委員会が主体であると理解しているが、広域機関においても連携して検証と監視をお願いしたい。

(事務局)

小宮山委員のご意見について、例えばサブシステムにするかといったところも含め非常に重要なところと考えており、しっかりとご議論させていただきたい。

(竹廣委員)

一点質問となるが、先日の制度検討作業部会において、逆数入札の件が話題になった。経過措置が適用される電源について、控除率の逆数を乗じて入札されることについて、委員、オブザーバーからご意見が多数出ていたと思う。制度検討作業部会では、最終的に必要に応じて検討するという結びであったと記憶しているが、この度のメインオークシ

ョンにおいて、約定電源が逆数入札された電源となり価格が決まった場合の具体的な取り扱いについては、どうなる見込みか、監視においてどういった対処が想定されるのか、現状の考えを教えてください。

(事務局)

広域機関としては、先日の制度検討作業部会の整理のとおりと考えているが、補足があったらお願いしたい。

(森本オブザーバー)

制度検討作業部会での議論については、逆数入札のご意見もあった一方で、今のままでもいいのではないかと、という両方のご意見があったと認識している。今回の入札においては、これまでご議論いただいてきた内容を踏まえて、粛々と行っていくものと理解している。少なくとも今回のオークションについては、逆数入札があったことも含め、落札を判断していく、ということと理解している。

(竹廣委員)

仮に、約定した電源が逆数入札であった場合は、どうなるのか。

(森本オブザーバー)

普通に落札されるものになる。

(竹廣委員)

ご見解は承知したが、落札された結果、再考の余地や、見直すべき点があるということであれば、引き続き議論がなされるという理解でよいか。

(森本オブザーバー)

落札そのものを見直すということではない、というご意見と承知したが、全体をレビューしていく中で、課題等があれば検討していくものと考えている。

(松村委員)

前回の制度検討作業部会も含め、逆数入札について、特別な取り扱いをするという提案があったが、その提案を採用すると決めたわけではなかったとご説明いただき、そのとおりだと理解している。このままいけば、その電源は落札され、その価格で決まることになると思う。提案自体は、どの電源が落札されて、どの電源が落札されないか、には影響しない提案だったと思うので、そもそも札を入れてどの電源が最終的に落札されるのか、ということは今までの方針どおり粛々と実施していくのだと思う。付ける価格については、最初のオークションの時にも変えることが入札前に決まれば、すぐに対応が可能だと思うが、デフォルトでは今までの整理で行くと理解している。さらに、今のエネ庁からのご回答では、それでいろんな弊害があるのであれば、2025年度受け渡し以降の入札において変更する、という議論はあり得るかもしれないが、現状では今までの整理のとおり実施する、したがって竹廣委員がおっしゃった方向ではない形で精算されると理解している。この理解で正しいか。

(森本オブザーバー)

ご理解のとおり。

(大山座長)

本日のご意見を踏まえながらメインオークションの応札や、実需給期間に向けて行う対応について、しっかりと準備を進めていただきたい。以上で本日の議事は終了する。

以上